

かみくげ 恐竜の里新聞

平成二〇年一〇月二五日

発行：上久下恐竜の里づくり協議会

第6号

上久下
地域づくり
センター
0795 78 0001

親子丹波竜フェスタ 上久下小学校に七〇〇人が集結

丹波市教育委員会主催の「みんな集まれ！親子丹波竜フェスタ」が一〇月四日（土）上久下小学校周辺で秋晴れのもと、市内から七〇〇人を超す親子連れのみなさんたちが参加して、にぎやかに開催されました。

親子のふれあいとぎずなを深めようと初めて「恐竜の里」上久下地区で開催されたもので、小学校体育館ステージでは幼稚園児の恐竜ダンスや忍者ショーなど、屋外では親子で化石レプリカや、恐竜を描いたハンカチ、キーホルダーづくりに懸命に取り組んでいました。化石発見体験教室ではハンマーを使って石片の中から化石の有無を確認し、植物化石が出るたびに歓声があがっていました。

見学に来ていた地元のお年寄りは、地元有志が出店するそれぞれのテントの前の行列をみて

「長く地域に住んでいるが、これほどの人が一度に上久下小学校に集まったのは見たことがない」

と目を丸めていました。

地元関係者のみなさんは、

「市内各地から多くの人が恐竜の里上久下を訪ね、『かみくげ』を知ってもらったことは今後の地域活性化活動にも元気がでくる」と喜んでいました。



恐竜足跡アートお目見え 下滝駅から発電所跡までの歩道上



これは「団体活動パワーアップ事業」で既に完成済みの等身大・恐竜モニユメントと同時に採択されたもので、JRを利用しての来訪者に発見現場までの道しるべとして楽しんでもらえるようにと二名のメンバーが三時間をかけて製作しました。地域の名物のひとつになればと協議会では期待しています。

救急救命装置を小学校に設置 スポーツ21が購入、講習会開く

上久下スポーツ21は九月二六日、小学校体育館でスポーツ21が購入し、設置した救急救命装置（AED）の取り扱い方法についての講習会を開催しまし

た。参加者三〇名は人工呼吸や実際に装置を使って心臓マッサージのやり方を真剣に学んでいました。現場での応急の処置によって心肺停止から生命が救われることになりました。

この装置は上久下小学校に常備していますが、各集落でのイベントの際は事前に貸し出しも可能です。

（申し込み・問い合わせは地域づくりセンターまで）



—— 一月の予定 ——

★一月一日（土） 刈田ウォーク
（上久下地区内）午前一〇時から午後三時

★一月三日（祭日） 地区文化祭
（地域づくりセンター）午前一〇時から午後三時三〇分

★一月一六日（日曜） 市長、市議会議員選挙

★一月八日（土） 里づくり協議会
午後七時三〇分

われらが里の元気人 見つけた！ 2

村岡文雄さん

(一〇三歳・太田)

村岡さんは明治三十九年一〇月一四日生まれで、一〇三歳の誕生日を迎えられたばかり。上久下地区内でもっとも元気に長生きをされている方です。

初めてお会いして、一〇三歳の年齢を全く感じさせないはつらつとした表情、受け答えに八〇歳前後と年を錯覚するくらいでした。今は耳が少し遠くなった程度で、他に体の悪いところもなく、元気そのもので、その元気の秘訣をうかがうと、

「人に喜ばれることをすること」と

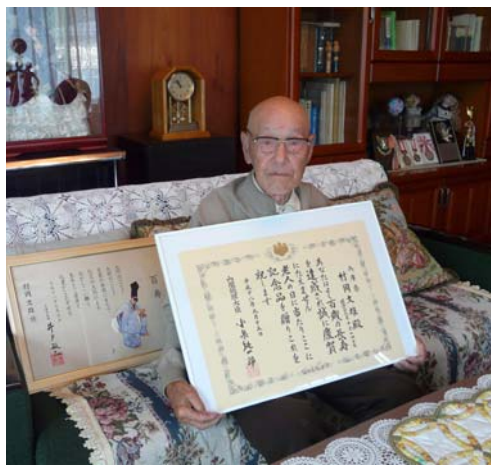
と自信を持って答えられていました。区長、寺役、農協理事など数多くの役職を経験されるなかで、人に喜んでもらえるようにと心掛けて暮らしてきたのが、健康で長生きにつながったようだと話されました。

朝に「希望」、夕に「感謝」をモットーに、今日も一日元気で過ごせますように、今日一日元気で過ごせて有難うと、毎日欠かさず先祖に手を合わせることを忘れません。一八歳で松皮の原皮(もとかわ)むぎを始め、八〇歳まで現役を通してこれら、七五歳の時には黄綬褒章を皇居で授与され、一〇〇歳では総理大臣、県知事からお祝いを頂いたと賞状を手写真におさまってくれました。

三田に住んでいる孫家族のために野菜つくりを精を出したり、一〇〇歳にな

ってからも東京見物に出かけられたりと健康人生を満喫されています。最後に村岡さんに「これからの夢は」とお尋ねすると、「もっともっと長生きしてみせます」としっかりと口調で言っておられました。帰り際、玄関先まで出て、背筋をピンと張って帰る車を見送っていただきました。

いつまでも健康で年を重ねられること願うばかりです。



探訪 里の秋祭り 青田の神楽舞

上久下地区八集落は一〇月一日(土曜)から一三日(祭日)にかけてほとんど一斉に秋祭りを行いました。そんな中、ちよっと青田の神楽舞を訪ねてみました。

青田の神楽は古く戦前から集落に引き継がれた指定(山南町)無形文化財で、訪ねた本宮の一日はさわやかな秋晴

れの大歳神社の境内で次々と伝統的な演目を優雅に舞っていました。

軽快な笛と太鼓のリズムに合わせ

て獅子と天狗、獅子

とこどもたちの息の合った舞は、

多くの見学者から喝采をあびていました。

記者(SM)も子供の頃に青田公民館で最前列で見学した記憶で、五〇年たった今、改めて見た神楽舞に長年地域で守られてきた伝統芸能のすばらしさに深い感動を覚えました。

青田の神楽舞を上久下の地域資源として大切に保存し、広く地域内外に発信してゆくために、各集落が同日に開催する秋祭り日程を調整して、より多くの人が参加できることを願っています。来年も是非訪ねてみたいと思った秋祭りの一幕でした。



クラブ活動の紹介 松風句会

現在会員数は一九名(うち男性五名)で月一回(第二火曜)定例会を開いています。

この会は昭和四十六年一月に下滝微妙

寺で「松風句会」としてスタートした三六年の歴史をもつ句会で、当初から尼崎の中村芳子先生の指導を受けていましたが、一〇年前からは大阪・茨木の荒木竜三先生の指導で毎回多くの句を詠んでおられます。

会員のみなさんそれぞれが長年の経験を積み重ねられ、現在では最年少が七〇歳、最高齢者が九二歳と今も元気で活動されています。

毎月の例会では前もって決められた題目(兼題)でみなさん句を詠まれ、丹波新聞、神戸新聞に投稿されたり、山南町文化祭(六月)、ミニアートギャラリー(十一月)、上久下文化祭(十一月)などに展示されたり、小川農協、中兵庫信金では長期展示会をしたり、今までに三回の句集を発行されたりと幅広く活動されています。会員のひとりに今後の抱負を伺うと、「ボケ防止のため、参加できるうちはずっと続けていきたい」と笑顔で返事が返ってきました。みなさんにはいつまでも元気で創作活動を続けて欲しいと思いました。

